

みえ国際協力大使 岡谷 佳澄さんからの活動報告

赴任国:フィジー 職種:環境教育 2009年6月派遣

国際交流をきっかけに 広がれ環と和！

2007年

まさか！？気軽に受けた人間ドックで言われたのは、「〇〇がんかもしれないから再検査ませう」。ええっ！私、いつまで生きれるかな・親より先にゆくのはよくないなあ・何がしたかったかな・などと自分でも意外に冷静に様々なことが頭に浮かぶ日々。精密検査の結果、病気の疑いは晴れ、自分が挑戦したかった青年海外協力隊に応募することを決意。「環境教育隊員として受かったら、どんなことができるかな。せっかくだから日本との交流も作りたいなあ」と様々なことに思いを馳せておりました。

2008年

青年海外協力隊(JOCV)を受験し合格。やった！

2009年7月

フィジーの首都スバにあるスバ市役所に赴任

現地を観察してニーズを汲み取りつつ、‘思い描いていたこと’ができるか検討してゆこう。

2010年6月

不要布を使った草履作り、黒煙削減のための紙芝居活動、広域研修の開催、学校での堆肥作りやペットボトル回収システムの構築などに取組む日々。時間は止まってくれない、気が付けばもう1年近くが経過。国際交流をする時間がなくなる！既にフィジー側の学校は決まっているのに・・・国際交流に興味を持ってくれる日本の学校を探さないと。

国際交流をしたいと思ったのは、「国は違えど環境問題に関しては共通の問題を抱えている。いやいや、同じ地球に住んでいるんだから同じ問題を抱えてるって見方もあるなあ。じゃ、いっしょにそれを考えるために国境を越えたタイアップができれば面白い！例えば‘私たちの環境に対する取り組み紹介’を手紙や廃棄物を利用して作った小物とかで交流ができないかな。各国の紹介、国際交流にもなるし♪」というのが主な理由でした。

2010年6月22日

まずは、‘出身地でJOCV経験のある教師の方がいるかどうか’を市の交流課の方にメールで尋ねることから開始。

2010年8月9日

やっと地元の元JOCVだった先生とのやり取りが開始。

しかし、残念ながら発展せず。任期は限られているけど、あきらめたくない！

2010年12月17日

交流先の検討を開始してから約半年が経過。この時期になって有田小学校の田中 基之先生が生徒さん達と環境に関する取り組みを実施されていたことを思い出しました。「よし！田中先生に相談しよう！」と思い立ったが吉日。この日、国際交流がやっと動き出しました。

Fiji側の様子：

スペシャル スクール(日本では養護学校と呼ばれています)で先生をしている20-4次隊の小杉 さやかさんの関心と協力のもと、スバ スペシャル スクールで子供達が作品作りをスタート。

スバ スペシャル スクールの子供達の登録数は、140人ですが、学校に来ている生徒数は、およそ100名(半分がインド系、半分がフィジー系)で、ジュニア(6-10歳)---30人、インター(10-15歳)---30人、ボケイショナル(15-20歳)---40となっています。

2011年3月16日

日本の有田小学校の生徒さん達からとっても素敵なお手紙が届きました^^

何度拝見させていただいても飽く事はありません。

皆さんからのお手紙を少し紹介させていただきますね。

1年生の皆さんからは、自己紹介とFor Saving the Earthのメッセージを頂きました。

ここでは、For Saving the Earthを紹介させていただきます。

みんなが環境のことを考えながら毎日生活している様子がひしひしと伝わってきました。

「学校のかえりにボランティアを、かえりにしました。ひろえたのは、かん、ビン、ペットボトルをひろいました。そして、先生たちにほめてもらいました。そして、先生たちの車へわけて、車へごみは、ほりこみました。たのしかったです。ゴミを見つけたとき、さっとひろいました。」

「ぼくは、水を出しっぱなしにしないようにしています。水を、なるべくつかわないときはつかわないとやくそくをしています。」

「ぼくたちは学校のかえりみちにつう学だんでごみひろいました。あきかんや、ペットボトルとたばこのすいがらとスチロールがよくおちていました。ぼくは、いつもごはんをのこさないようにしています。」

「ぼくは、れいぞうこのでん気をむだにしないようにれいぞうこのドアをにんじやみたいにあけてしめます。」

「わたしたちは、学校のかえりみちに、つう学だんで、ごみひろいをしました。かんやふくろをひろいました。わたしは、いえで、でんきやこたつをけしています。おばちゃんと、おとうさんと、おかあさんとやくそくしています。」

つぎに3年生の皆さんから頂いた自己紹介を紹介させていただきます。

まだ会ったことがないフィジーのみんなへのメッセージがとても暖かくて優しいです。

「ぼくは、野球をならっていてもやすみじかんは、サッカー、ドッチボール、せつこと言うあそびを
やっています。フィジーのお友だちはなにをやすみじかんやっていますか？フィジーのお友だちは、
なにがすきですか。三重県にきてください。」

「こんにちは、元気ですか？私はすごく元気です。私は一度みなさんにあってみたいです。私はす
ごくはずかしがりやでいつも声がちいさくてはきはきいえません。でも弟とけんかする時はなぜか
大きな声がでます。なぜかな？と思います。みんなはなにで遊のがすきですか？私はハンターと
いうのがすきです。私はダンスがとくいです。ダンスをするときもちよくてすっきりします。またてが
みをおくってねーバイバイ 私は弟とふたごだよ」

「みんな元気ですか。わたしたちはげんきです。わたしたちの学校では学活や書写など、いろい
ろなかもくがあります。きゅう食もおいしいです。わたしたちは、学校に歩いていきます。とてもたい
へんだけど、がんばって学校までいきます。フィジーのお友だちは、歩いていきますか。みんなと
ても元気でいてください。」

本当はすべて紹介したいのですが、ここでは一部になってしまっておめんなさい。



また、この日は郵便局から飛行機便でスバ スペシャル スクールの子も達の作品を送りまし
た。有田小学校の皆様、発送が予定日より遅れてしまっておめんなさいね。

日本に着くのは、約2週間後とのこと。無事に、どうか無事に届いてくれますように。

Fijiから発送した箱の中身は、草履と海の絵、学校の風景や子供達の作製に携わる様子とコメ
ントを映したDVD、Fijiの海や空、魚などを撮った写真が入ったディスク、そして3月初めに完成し
た 廃棄される物を使って材料費をほとんどかけずに作れる‘物作り集’です。



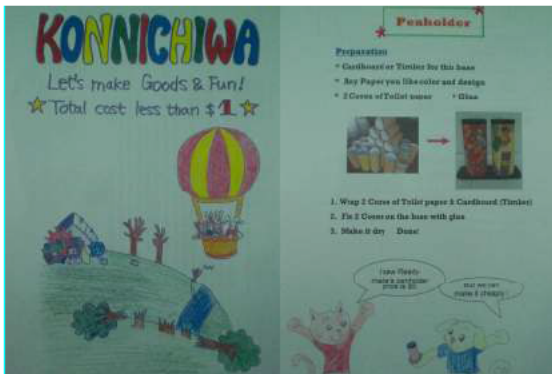
Fijiの海や空



草履は服を創るときに捨てられる端切れを使っています。



絵は、上の写真にあるようなFijiの海をイメージして作りました。裏紙(カレンダー)を使っています。端切れも裏紙もどちらもゴミではなくて大切な資源として素敵な作品に生まれ変わりました(^^)



タイトルは、“KONNICHIIWA”どんな材料から、何ができあがるかな。

物の作り方に限らず、作った作品をマーケットで売ることもできること、Fijiのリサイクル会社の紹介やFijiで回収されたペットボトルの行方などを盛り込みました。

全部のデータは、別添PDFファイルを参照してください。

今後は、頂いたお手紙を訳して、フィジーの子ども達と先生に紹介していきます。

有田小学校の皆様、Fijiの子供や先生方に有田小学校のみんなのこと、日本のこと、環境に関して取組んでいることなど、いろんなことを教えてくれてありがとうございます^^

2010年3月30日

よかったあ！！ 下記のように田中先生から無事に届いた知らせを頂きました。

Fiji 岡谷 佳澄 様

今日、今、日本時間18時過ぎ、有田小学校に宅配業者が来ました。

つまり、Fijiからのお手紙等の段ボールが届いたのです！！

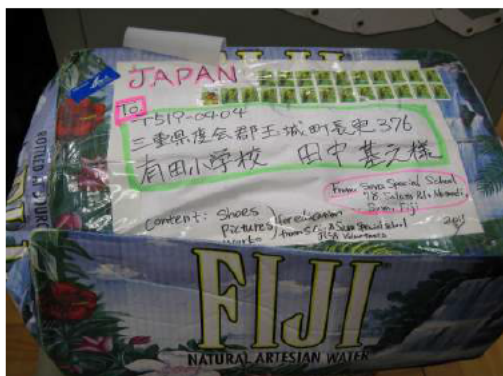
感激しました。切手も、箱のデザインも、書かれている説明も、何もかもFijiからなんだなと実感を高めてくれました。宛名は自分の名前が書いてもらってあり、これまたうれしいです！！

何と、箱のすみが何かに押されてか、つぶれていました。

この形さえも、長い距離を運ばれてきたと伝えてくれます。

よくぞ、ここまで来てくれましたと、箱の頑張りにも感謝するほどです。

参考までにお姿を添付します。



運ばれてきたときは、ほとんどの職員が帰った後で、私と教頭しかいませんでした。

今は私の机の上に。

箱を開けたくて、開けたくて、開けたくて、開けたくて、開けたくて・・・

たまらないのですが、新2・4年生とその担任たち2人、橋先生、私がそろって、

つまり、4月6日の始業式に開封するべきだと判断しました。

開けるのも大きな楽しみの一つです。しかも、この箱の、今の素敵な姿も見てほしいから。

さらに、箱詰めした時のFijiの皆さんの気持ちにも少し寄り添いたいから。

それまで、そのままにしておいて構いませんよね？

ああうれしい！

家に戻り、すぐにこのPCに向かいました

有田小学校 田中 基之

新学期が始ってから有田小学校のみんなは、どんな気持ちで箱を開けるのかな・・・中身を見て
どんな声があがるかな・・・それから、みんなでどんなことを共有してゆくのかな・・・

って考えるだけで、私もとんでもなくワクワクします！

有田小学校 田中 基之先生からのコメント

フィジーからのメールを拝見した際は、岡谷さんとお会いしてから2年程が経っていました。

久々の便りを見て「おっ、このお名前は・・・地球の裏側からメッセージをいただけるなんて！」という感激でした。地球のどこかと交信できている自分が幸せに思えました。うれしさで、この呼びかけに何とかお応えできたらいいなと考え、職場のみなさんや1年生の子ども達に自分達の生活や環境に対する取り組みを紹介して交流してみませんかかと投げかけました。

本当は、4～6年担任の先生方も、やってみたいけれども、学期末でなかなか時間がとれずに申し訳ないと話されていました。年度初めに見通していれば、本当に協力したかったという声がありました。

1年生の子ども達は、送っていただいた写真に釘づけで、写っている子ども達、先生、景色を見ていました。また、環境に対する取り組みの話(メールの内容)も聞いていました。特に、パイナップルの頭を景観保護のために植えるという話には、‘へえ～’とびっくりしていました。

1年生にとって、水・電気などの使い方、物を大事にする、リサイクルできるものはする、食事を粗末にせず何でも食べるなど、たくさんのことに気づかせてくれる機会になりました。フィジーに手紙を書くために、子ども達は、自分の生活の仕方をいっぱい考えました。

今回送ってもらった手紙、DVDは、新2、4年で見てもらいます。その学年で思い、感想を返せると 素敵なのではないかと願っています。

~~~~~

私の任期もそろそろ終盤です。

JOCVを受験する前からの自分を振り返ると、人間ドックのことがきっかけになったり、一体どんなことが自分の世界を広げてくれるか分からないと思っています。「どんなときも自分次第で世界は広がる」そして「繋がってゆく」のだと思います。

この国際交流では、年齢も性別も国境さえも飛び越えて、いろんな人の、いろんな思い、思いやりだったり感謝の気持ちだったり形になってゆくことを実感しました。また、出会いや、ご縁を大切にしたいとも改めて思いました。

Fijiの皆さん、日本の有田小学校の皆様、関係者の皆様、本当にありがとうございました。

環境への関心、知識の環、人との繋がり、平和の和、いろんな環と和が広がりますように。